



セボネ

タガヤ ランティア ネットワーク
Setagaya Volunteer Network

特集

P.2-5

神宮外苑のイチョウから世田谷のみどりを考える



まちの市民力!! P.6

一般社団法人マター・オブ・トラスト・ジャパン



せたがや
災害ボランティアセンターレポート P.7

能登半島地震被災地支援ボランティア 引き続き穴水町で活動



おたがいさまビュー P.8-P.11

ボランティア募集、講座などお知らせ &
ミニレポート おたがいさまフェスタ 2024 開催報告

神宮外苑のイチヨウから 世田谷のみどりを考える



秋には黄金色に輝くイチヨウ並木。 写真：近藤浩紀

住民の知らない間にいつの間にか進められていく再開発。東京だけでなく各地で当然のように見られる光景です。「経済」のため、「金儲け」のためにはこれしかない、と思っているのでしょうか。地球温暖化が懸念される時代、どこかでストップさせなければ。「神宮外苑」の問題を考えながら、私たちにできることに思いをめぐらせてみましょう。

坂本龍一さんからの伝言

昨年3月28日に亡くなった音楽家の坂本龍一さんは、一か月前に小池都知事らに宛てて手紙を書きました。「率直に言って、目の前の経済的利益のために先人が100年をかけて守り育ててきた貴重な神宮の樹々を犠牲にすべきではありません」。これは、残された者たちに託された伝言のよう

なものです。どう受け止めて、どうすべきなのかを問われているような気がします。

神宮外苑の再開発計画とはどんなものなのでしょう。ラグビー場は屋根付きとなり、神宮球場にはホテルが併設、200メートル近いビルが二棟という超巨大なものです。

神宮外苑は
国民が心をこめた「みんなのもの」

1920年、8年前に亡くなった明治天皇をまつる明治神宮がつくられました。代々木の御料地に本殿などが建てられ、全国から献木された10万本の植樹をして作った人工の森のある内苑とは別に、神宮を建てた記念に作られたのが外苑です。

外苑は近代初の都市公園で、「公衆の優遊」を旨とし、明治神宮翼賛会が組織されて国民の寄付と献木による「ボランティア」が造成に当たりました。竣工されたのが

地での保全是可能であり、掘削による水循環への影響によりイチヨウの生育に影響が生じることへの懸念を表明しています。これからの子どもたちの未来のために「生物多様性」の豊かな空間を創り出していくことの大切さが求められている今の時代に、その視点がな

いのがこの開発計画です。
東京で緊急な問題となるのが「ヒートアイランド」現象。緑が

ほとんどなくなることでよってこの現象はますます深刻化していきます。地震などの災害がいつ起こるかかわらない日本。東京でも非常時の人命の救助や被災後の仮設住宅の建設などを想定したオープンスペースがあることが求められます。超高層ビルを並べてしまったらその可能性は消えてしまいます。

公園は「コモン」

本来、公園は「おやけ（公のもの）」であり、公共資産《コモ

1926年。100年の森を想定して作られ、イチヨウの木が大きくなる150年後を見据えて樹木の間隔を取ったものでした。日本が国際社会に誇る「近代日本の公共空間を代表する文化的資産」で、社会が共有することで、世界の文化の発展に寄与するものです。歴史のある150年が経った今、再開発が進み、木が切られるというのです。

2021年のオリンピックピックのメイン会場として国立競技場を建て替える際に、規制が緩和されて開発が本格化しました。高さ15メートルの制限を、都は最高80メートルまで引き上げましたが、「地区の風景にそぐわない」との世論の反発があつて、代わりのデザインでは高さが47メートルになりました。しかし、高さ制限は取り払われたまま、周囲には競技場より高い建物が次々と建ちました。外苑の再開発は本格化し、三井不動産、伊藤忠商事などの事業者による185メートルにもなる商業目

的の超高層ビル建設が計画されています。

再開発計画にはたくさん問題が

超高層ビルにより景観が損なわれるのは明らかですが、超高層ビルが併設される神宮球場は移転してビル風と日陰の球場となり、秩父宮ラグビー場は屋根付きで、しかも緑の聖地が人工芝になるという計画です。さらに深刻なのは、150年を見据えた樹木が開発により伐採されること。1904本ある高さ3メートル以上の木のうち743本を伐採し、275本を移植、新しく837本を植樹するとい

います。
都市計画決定が行われた事業者案を踏まえて、日本イコモス（国際記念物遺跡会議日本委員会）は、さまざまな角度から反論し、提案を行つています。4列あるイチヨウ並木に隣接して外野スタンドが立ち上がり、2列のイチヨウ並木を移植するという計画に対し、現

ン》のほずです。公共の土地が狙われているのが今の再開発ラッシュ。神宮外苑だけでなく、日比谷公園、葛西臨海公園、松平定信の庭園があったとされる築地市場など、すべて歴史的に価値のある部分がドミノのように破壊されていく恐れがあります。住んでいる人たちの憩いの場、外から来た人たちもホッとできる場が公園。それがどんどん「経済効果」「利便性」といった至上目的がいつの間にか



世田谷区のランドスケープを紹介している
出典：マルモ出版 LANDSCAPE DESIGN No.155

委員であり、外苑の再開発問題に多くの発言をしている石川幹子さんを招いたのが契機となり、大阪駅前に4×5ヘクタールの都市公園を中心とした「うめきたの街づくり」が実現しつつあるそうです。ニューヨークのセントラル・パークは、アメリカの著名なランドスケープアーキテクトのフレデリック・ロー・オルムステッドが100年を見越して創ったサステナブルな公園で、市民の憩いの場であり続けています。アメリカのまちづくりは「気持ちがいい緑の



暮らしの景観・環境をテーマにした
日本で唯一の専門雑誌
マルモ出版 LANDSCAPE DESIGN

都市の中心部の環境を破壊していきます。イギリスやフランスでは増改築が7割で古いものを利用しているのに対し、日本は真逆です。開発までの経緯が十分に市民に周知されず、いきなりトップダウンで決まってしまうのが日本。外苑の再開発に関しても、米国人ロッシェル・カップさんが計画中止を呼びかけたオンライン署名が20万筆以上集まりました。内容を知らされれば市民もこの重大さに気がつき、何らかの行動を取ることができそうです。

東京、日本全体で進んでいる開発の問題は、決して世田谷に住む私たちにとって他人事ではないはず。一度壊してしまったものの修復は困難、切ってしまった木は、また新たに植樹したとしても生育にどれほどの年数がかかるのか、いや、環境の著しい変化によって育つのが困難になることは明らかでしょう。取返しがつかなくなる前に、多くの人びとの力でなんとかしなければ、と切に思います。

オープンスペースがランドスケープを中心に考えられています。最近話題のマンハッタンの高架跡地に緑をしたらえ空中庭園にした「ハイライン」など、街には緑のオープンスペースが欠かせないという考え方がアメリカやヨーロッパでは常識です」と丸茂喬さんは語ります。

住民の参加と協働 そして想像力を！

「行政に頼るのではなく場所の意味を活かすまちづくりのために市民が主体になり誰もが自由に使えるルールを作るべきです。ビジネスを優先する指定管理者制度は最悪です。世田谷では参加型の活動として、小田急線の地下化に伴う下北沢周辺の跡地に生まれた「シモキタ園藝部」による緑をつくり育てる活動があります。市民の為にありべき社会資本を一部の企業が「企業利益」に変えてしま

う開発が行われる世の中で、住民

公園を「風景づくり」と考える

世田谷線上町駅から徒歩7分程にある「マルモ出版」は出版に「本の工房上町まるものがたり」というブックサロンを併設した出版社です。隔月刊の『LANDSCAPE DESIGN』と年4回の季刊誌『MY GARDEN』の2誌を柱として定期雑誌を刊行しています。『LANDSCAPE DESIGN』では、2022年10月号から継続して明治神宮外苑の再開発に警鐘を發した特集、例えば「人の憩いの場としての外苑へ」「危機に瀕する外苑イチョウ並木」などが組まれています。丸茂喬さんに、世田谷事情も含めてお話を伺いました。

2014年には「大阪にセントラル・パークを！」という構想を同誌で紹介。大阪のうめきたに「ほんまもんのみどりをつくらう」と、うめきた・みどり推進委員会委員長の篠崎由紀子さんがよびかけて市民活動の勉強会を開催しました。その時に、日本イコモスの定員が埋まったとか。

参加者からは「先生だけに任せるのではなく、私たち自身も立ち上らなければならぬ」という発言もあったそうです。「都市の再生のためには、100年経つとどうなるのか、都市風景の魅力をつくるための想像力が必要で、現状はスクラップアンドビルドの開発のみが横行して、その想像力がこの国には欠如しているのではないだろうか」。

私たちの足元で知らぬうちに進められていく「開発」はどうか、想像力を持って考えていかななくてはと思います。公園を「ランドスケープファースト」と捉える『LANDSCAPE DESIGN』誌からは、たくさんヒントが得られそうです。



1軒ずつ困りごとがないか聞いて回りました。

能登半島地震被災地支援ボランティア 引き続き穴水町で活動

3月の第1便に続き、4月12日(金)夜から、10人のメンバーが石川県穴水町に派遣しました。今回は東日本大震災の時から当協会が活動されている方や被災地でのボランティアは初めてという方など幅広いメンバー構成です。

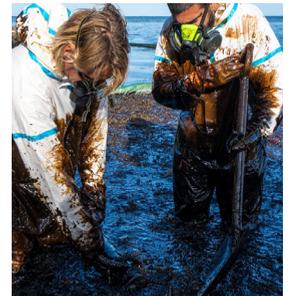
出発前のオリエンテーションで活動上の諸注意を共有してから世田谷を出発、夜通し走行して13日朝に穴水町に到着しました。

穴水町災害ボランティアセン

この活動に共感し、2021年に日本でマター・オブ・トラス・ジャパンを立ち上げたのが代表の濱七彩子さんです。2020年に起きたモーリシャスでの日本船籍の原油流出事故に心を痛めた濱さんがマター・オブ・トラスに連絡を取り、アメリカからヘアマットを作る機械を無償提供いただき、拠点のある世田谷で活動を始めました。その後、SNS上の動画メディアに取り上げられたことで認知が拡大、幅広く問い合わせが来るようになり、ヘアマットを作るボランティアも増え、今では毎週のようにヘアマットを作る活動を行っています。

現在の課題はヘアマットの活用先と活動場所(保管場所)の確保です。そこで、2023年から、作ったヘアマットの活用先を開拓しようと様々な実証実験を行っています。例えば、新潟の廃油田からあふれる油をヘアマットに吸着させてみる、野外音楽イベントでのフードコートの油をヘアマット

一般社団法人 マター・オブ・トラス・ジャパン



モーリシャス原油流出事故での油回収の様子

のフィルターで吸着させてみるなど、油の新たな回収方法を日常の中で具体的な形にしようと取り組んでいます。一方で、活動機会を増やそうと、ヘアマットを作る機械を独自に開発することも目指しているそうです。

この活動のユニークさは、ごみだと思っていたものを新しい価値として見直すことにある、と濱さんは言います。このことは髪の毛に限った話ではありません。私たちは様々な資源を使っていますが、使い終わったら捨てるのではなく、新しい価値をそこに見いだすきっかけにもなるのではないのでしょうか。興味ある方はぜひ活動に参加してみてください。



ボランティアのみなさんと作ったヘアマット

量の蚊やブユに多くのメンバーが刺されてしまう事態に見舞われ、虫よけ対策必須という学びを得ましたが、同日夜に無事帰着しました。

当センターでは今後も引き続き現地での活動を行い、レポートも続けていきます。参加をご希望の方は、まず被災地支援ボランティア登録をお願いします。ご登録頂いた方に、活動予定と申込方法をお知らせいたします。



落下した瓦を撤去しました。

翌14日は、ご住職がつないでくださった、避難所から戻った方の自宅から畳を運び出すニーズに対応した後、前日確認した落下瓦(トラック2杯分)を他チームと合同の計15人で撤去しました。大

被災地支援
ボランティア登録は
下記の二次元コードから



放課後の移動付き添い求む

ダウン症の小学1年生の女の子が、放課後にスクールバスの停留所から学童保育所まで移動する際に付き添ってくださる方を探しています。女の子は、学童保育のお友だちと遊ぶのを毎日楽しみにしています。ご両親は仕事があり、付き添うことができません。ゆっくり歩いて30分の道のりを付き添ってくださる方、まずはお問合せください。

- 日時/月・火(第4週のみ)・水・木 14時25分～(水曜日は15時25分～。週1回から応相談)
- 場所/三宿近辺の停留所から徒歩30分の学童保育所まで
- 条件/報酬1回1000円。別途交通費実費支給(上限あり)
- 問合せ/世田谷ボランティアセンター 担当:原口 TEL:03-5712-5101
メール: haraguchi@otagaisama.or.jp

保育園まで送ってくださるボランティア募集

年長(6歳)の女の子を、保育園まで送りを手伝ってくださる方を募集しています。お母さんが一人でごんばって送迎した結果、体調を崩してしまいました。地域の方の手を借りて今後も保育園に通わせたいと思っています。笑顔のかわいい、明るい女の子です。詳細はお問い合わせください。

- 日時/月、火、木、金の9時頃に保育園着。週1回でも可。
- 場所/自宅(南烏山5丁目)から蘆花公園内にある保育園。徒歩約30分、自転車利用可、バスの場合は約20分。
- 条件/女性希望、優しく接してくださる方。報酬:1,000円(1時間)、交通費支給(区の緊急介護人に登録していただきます)
- 問合せ/烏山ボランティアビューロー TEL:03-6909-0333
メール: karasubora@otagaisama.or.jp

中学1年生男子と一緒に散歩して下さる方募集

知的障害がある中学1年生の男の子が、休日に一緒に散歩や買い物をして下さる方を探しています。人見知りもなく、明るい男の子です。月に1回からでもお手伝いいただけると助かります。詳しくはお問合せください。

- 日時/日曜、祝日の午前中(2時間程度、応相談)
- 場所/玉堤周辺 ●条件/報酬:1,000円/1時間(区の緊急介護人に登録していただきます)
- 問合せ/玉川ボランティアビューロー TEL:03-3707-3528
メール: tamabora@otagaisama.or.jp

車いすの女性の通院付き添いや家事ボランティア募集

車いすを使用している80代の女性が、通院の付き添いや自宅の掃除や買い物など家事をサポートしてくれる方を探しています。現在一人暮らしのため、生活のサポートをしていただけると助かります。活動日は、通院日により変動しますが平日午前中が多いです。家事サポート日は応相談です。詳しくはお問い合わせください。

- 日時/平日の日中(応相談) ●場所/玉川の自宅、病院(3か所)
- 交通/田園都市線・大井町線二子玉川駅徒歩7分
- 条件/報酬:1,000円/1時間(区の緊急介護人に登録していただきます)
- 問合せ/玉川ボランティアビューロー TEL:03-3707-3528
メール: tamabora@otagaisama.or.jp

東京リハビリテーションセンターに通う方の見守りをお願いします

自宅(祖師谷6丁目)と東京リハビリテーションセンター(松原6丁目)の送迎バス内での見守りをしてくださる方を求めています。歩行が不安定なため見守りが必要です。行きは自宅前午前9時、帰りは東京リハビリテーションセンターを午後3時に出ます。帰りはリハセンまでの戻りの同乗が可能です。行きだけ、帰りだけでもお願いしたいです。また、複数人での対応を考えています。詳細はお問い合わせください。

- 日時/水、木、金曜日 行き9時 帰り15時
- 問合せ/北沢ボランティアビューロー TEL:03-3420-2520
メール: kitabora@otagaisama.or.jp

幼稚園のお迎えをして下さる方募集

4月から年中さんになった女の子です。幼稚園から自宅までのお迎えをお手伝いして下さる方を募集しています。週1~2回。特に下のお子さんの体調が悪いときにお手伝いして下さると助かります。

- 日時/日には要相談。14時~17時の間に幼稚園にお迎え。
- 場所/芦花幼稚園(粕谷2丁目20-1)から自宅まで(大人の足で10分位)
- 交通/京王線芦花公園駅徒歩15分 ●条件/女性
- 問合せ/烏山ボランティアビューロー TEL:03-6909-0333
メール: karasubora@otagaisama.or.jp

「金メダルの輪」を広げてください!

千歳烏山で35年、トロフィーやメダルを製作するジャパンプライズ株式会社では、寄付していただいた金メダルをリサイクルし、福祉施設等へ通う子どもたちとその家族に希望を届ける「つながるメダルプロジェクト」に取り組んでいます。

- ※「つながるメダルプロジェクト」や「金メダル寄付活動」とウェブで検索してください。
- 金メダルは彼らにとって、単なる賞ではなく、日々の生活で新たな挑戦に向かう勇気や楽しみへのきっかけです。子どもたちに金メダルを贈りたいと考えている施設や病院、金メダルの輪を広げる活動に賛同していただけるボランティア団体など、関心のある方からのご連絡をお待ちしています。
- 問合せ/烏山ボランティアビューロー TEL:03-6909-0333
メール: karasubora@otagaisama.or.jp

難病の方の通勤サポート&PC作業手伝い&犬の世話 有償スタッフ募集!

関節の炎症のため1人での歩行が難しい女性教員が、通勤サポート(車の運転および歩行時に荷物を持つ、片道40分程度)と、仕事場および自宅でのPC作業(メールチェック等。PCはMac)を手伝ってくださる方を探しています。また、犬の世話をお願いすることがあります。おとなしく眠っていることが多いので、お世話はほぼ不要ですが、見守りをお願いしたいです。通勤にはご本人の車を使用し、道に慣れるまではご本人が片道を運転することが可能です。現在複数名でサポートしていますが、お一人が今後活動できなくなるため、新たに活動して下さる方を探しています。女性希望、年齢不問。まずはお問合せください。

- 日時/毎週火曜日 9時30分~17時(およそその活動時間です)
- 場所/自宅(野毛2丁目)と職場 ●交通/自宅最寄は東急大井町線野毛駅
- 条件/女性。1回8,350円(7.5時間の場合)(1時間あたり1,113円:端数切り上げ、集合場所までの交通費別途支給)
- 問合せ/玉川ボランティアビューロー 担当 TEL:03-3707-3528
メール: tamabora@otagaisama.or.jp

上記掲載記事は5月17日時点の情報です。変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

2024 年度夏のボランティア体験「ナツボラ&ナツボラ・ジュニア」開催します！

中学生以上の夏のボランティア体験「ナツボラ」、小学生対象の「ナツボラ・ジュニア」を今年も開催します！参加を希望される方は申込日に参加が必要です。
 <ナツボラ体験申込日> (事前予約は7月5日(金) 17時からナツボラ専用ページにて) 7月14日(日) 10時～16時30分 6枠制@世田谷ボランティアセンター
 <ナツボラ体験追加申込日> (事前予約は7月5日(金) 17時からナツボラ専用ページにて) 7月25日(木)、26日(金)、27日(土)
 いずれも10時30分～12時@世田谷ボランティアセンター



<ナツボラ・ジュニア体験申込日>
 7月13日(土) 10時30分から@世田谷ボランティアセンターおよび各ボランティアビューロー

プログラム詳細は6月下旬頃からホームページでお知らせいたします。
<https://www.otagaisama.or.jp/natsubora>

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをおつなげる橋渡しをしています。困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できるのかわからないという方は、ご相談ください。電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。
 ●問合せ/世田谷ボランティアセンター TEL: 03-5712-5101
 メール: v-soudan@otagaisama.or.jp

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生～高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアを探して紹介しています。現在は、オンラインでの学習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重していきます。お気軽にご相談ください。
 ●問合せ/世田谷ボランティアセンター TEL: 03-5712-5101
 メール: v-soudan@otagaisama.or.jp

ミニレポート おたがいさまフェスタ 2024 開催報告

4月27日(土)に開催した「おたがいさまフェスタ2024」にご来場くださった方々、出店団体やボランティアのみなさま、ありがとうございました！たくさんの方々がご来場くださりとても嬉しかったです。
 今回は、下馬第三集会所の広場をメイン会場とし広々とした中で開催することができました。また、リサイクル市(バザー)と同時開催する初の試みでした。
 1月1日に発生した能登半島地震から、「いつか来るそのために、災害時にもおたがいに支えあうまちづくり」を目指して、一人ひとりの防災への備えと日頃から顔の見える関係をつくっていくことに重点を置き、より一層私たちの存在とここで活動している団体やグループを知ってもらうことを目指しました。また次回開催の時も、どうぞよろしくお願いいたします！写真: 谷浩二



上記掲載記事は5月17日時点の情報です。変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

2024 年度「せたがやチャイルドライン 公開講座」参加者募集

チャイルドラインは1998年から日本で初めて世田谷で実施され、今では全国約70カ所で子どもたちからの電話を受けています。電話を受けているのはすべてボランティアです。開始した頃から時代が変わりましたが、話を聴いて欲しい子どもの気持ちは変わっていません。子どもたちの声を聴くボランティア育成のために研修を企画しました。
 子どもと直接かかわってきた講師たちが、子どもの声を聴くために役に立つお話やワークをします。子どもの声をそのまま受けとめるということが、どんなにおもしろく、むずかしく、奥が深いことが、実感していただけたと思います。
 そして、チャイルドラインに参加してみたい！と思った方には、子どもの声を聴くために、より具体的なことを学ぶ専修講座もご用意しています。

- 日時/
- ③ 6月 8日(土)13時～15時、④ 6月 8日(土)15時30分～17時30分
- ⑤ 6月 22日(土)13時～15時、⑥ 6月 22日(土)15時30分～17時30分
- ⑦ 7月 6日(土)13時～15時、⑧ 7月 6日(土)15時30分～17時30分
- ⑨ 7月 20日(土)13時～15時、⑩ 7月 20日(土)15時30分～17時30分
- ⑪ 7月 27日(土)13時～15時、⑫ 7月 27日(土)15時30分～17時30分
- ※⑪と⑫は、当初5月11日(土)に予定していた講座①と②です。
- 開催方法/会場(世田谷ボランティアセンター(世田谷区下馬2-20-14))、またはWEB会議ツール「ZOOM」 ※⑨は会場のみで開催
- 参加費/1講座2,000円(学生1,000円)
- ※初回申込時に全10回一括申込は19,000円、学生9,000円
- ※講師や講座内容、申込は当協会のホームページからご確認ください。
 「せたがやチャイルドライン公開講座」と検索してください。
- 問合せ/せたがやチャイルドライン事務局 TEL: 03-5712-5101

災害ボランティアコーディネーター養成講座(基礎編) @昭和女子大学

2024年度1回目となる「災害ボランティアコーディネーター養成講座 基礎編」を昭和女子大学にて開催します！内容は講義・模擬訓練、世田谷区の災害対策、災害ボランティアの活動内容(世田谷方式)等を学びます。
 ●日時/6月8日(土) 13時30分～16時30分 ※13時より受付開始
 ●会場/昭和女子大学1号館4階(世田谷区太子堂1-7-57)
 ●交通/田園都市線・世田谷線三軒茶屋駅徒歩7分 ●参加費/無料
 ●申込/5月1日(水)～6月6日(木)までに、せたがや災害ボランティアセンターのホームページ内の専用フォーム、またはメールか電話にてお申し込みください。
 ●問合せ/せたがや災害ボランティアセンター TEL: 03-5712-5101
 メール: saigai-info@otagaisama.or.jp

市民活動・NPO相談

世田谷区内で活動を始めた方や、すでに活動している方を対象に団体、個人を問わず、グループ・団体、法人の立ち上げや運営に関する基礎的な相談・情報提供を行っています。相談をご希望の方はお問合せください。また会計、税務、契約、社会保険、雇用、法律の専門相談も行っています。(原則として事前予約制です)
 ●問合せ/最寄りのセンター、および各ビューローにご連絡ください。電話番号は裏表紙参照、専門相談はセンターにお問い合わせください。

AIシステムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAIシステムによるマッチングサイト(世田谷版G B E R「ジーバー」)で結び付け、ボランティア活動を支援します。
 詳細は右記二次元コードからご覧ください。



世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点



相談・お問い合わせ先

- ボランティアについて ▶ 【世田谷ボランティアセンター、各ボランティアビューロー】
- 災害ボランティアについて ▶ 【せたがや災害ボランティアセンター】
- リハビリについて ▶ 【ケアセンターふらっと、ケアセンター with】
- 訪問介護について ▶ 【ケアステーション連】
- 介護プランについて ▶ 【ケア相談センター結】
- 障害について ▶ 【ぼーとせたがやスペース ココカラ。】

ご意見・ご感想等お寄せください

皆さまのご意見・ご感想などをお待ちしております。「こうしたボランティア情報が読みたい！」などもございましたら、お気軽にお寄せください。今後の参考にさせていただきます。



協会ホームページ、
Facebook、Instagramは
こちらの二次元コードから



ホームページ



Facebook



Instagram

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。